精神の發達には遲速あり

東京女子高等師範學校教授　古川竹二

序言
一、環境による場合
二、個人の場合

序言

クラスの中では、一番先へ進んで居るやうに、入學試驗を受けては、一番よい學校に眞先には入れるやうに、かやうに早く〳〵と我が子を進め度がるのが近頃の親心である。その爲に子供等は頻りに激勵され鞭撻される。何故そんなに急がなくてはならないか。それが子供等の自然に適つて居るのであるか。二年や三年人におくれることが、それほど人生に於ける重大な損失であるか。廣く世間を眺めて見ると、どうも左樣ではないやうである。最初から早く走つたものが必らず後まで續くとは限らないやうに、私は人の精神の發達には遲速があつて、兵隊が横隊行進をする時のやうに、綺麗に同じ早さで皆の者が進むものではない、と考へるので斯く云ふのである。それを次の二つに分けて考へて見度い。

一、環境による場合

子供等が育てられた環境によつて、精神の發達に一年位の相違が起ることは、ニエチャエフの研究以來、教育學上で問題とされて居る。私は先年青年期の智能の問題について研究し、之につき思ひあたることがあるのでその結果の一部を述べて見度いと思ふ。それは人の全能力に就ての調査ではないが、主要能力たる推理力に就てのもので、方法は智能檢査によつた。メンタルテストは誤り用ゐれば何にもならないけれども、充分に研究經驗の上之をなせば、智能を知るによい方法である。問題は次のものである。讀者試みに之を解いて見られよ。

この問題を、最も刺戟の強い東京の某高女生徒全部約五百名と、百里を距てた地にある愛知縣立某高女全部、更に百里を西した地である山口縣立某高女の全生徒各約五百

時間十分　　姓名

年　月生

次の各列の空いて居る所にある線の上に、適當な數字をお入れなさい。

例

(一)	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20
(二)	1	1	2	2	3	3	4	4	5	5

問題

(一)	1	2	3	4	—	6	7	8	9	10
(二)	10	12	—	16	18	—	22	24	26	28
(三)	12	11	10	—	8	7	—	—	4	3
(四)	1	3	—	7	9	11	13	15	17	—
(五)	—	39	37	35	33	31	29	—	25	23
(六)	4	5	7	—	14	19	25	32	40	—
(七)	$\frac{1}{64}$	$\frac{1}{32}$	$\frac{1}{16}$	—	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	—	2	—	8
(八)	8	15	—	29	36	43	—	57	64	71
(九)	10	—	15	16	20	21	—	26	30	31
(〇)	2	—	8	10	—	10	20	10	26	—
(一)	7	—	10	11	13	14	—	—	—	20
(二)	—	4	9	16	25	—	—	64	81	100
(三)	—	4	7	14	17	—	—	—	77	154
(四)	32	—	—	—	28	29	26	27	—	25
(五)	6	10	13	—	—	—	15	13	10	—
(六)	60	55	—	—	46	45	—	46	48	—

(七)　1 3 5 7 9……,……第80番目の奇數は—

(八)　1+3=4
　　4+5=9
　　9+7=16
　　16+9=25
　　121+—=—

東京某高女

學年		平均
一年	8	
二年	8	
三年		9
四年		9
五年		9

備考　一題を一點とす

時間に之を施行して貰つたのであつた。しなかつた種々の興味ある事實を得たのであるが、そのうちに今の問題に觸れたものがあることを面白く感じたことであつた。その事實は次のやうである。

右の如く、一年生にも、五年生にも出來る問題を課するこ、東京の某高女に於ては、三年生から一段上つて後は四

名、卽ち環境を大いに異にした地に所在する青年期女生徒合計約千五百名に驗して、その結果を見たのである。申すまでもなく斯樣な調査は、出來るだけ嚴密を要するのでそれ等の學校の校長や敎頭が友人であつたのを幸、自分で行つて試驗官たる先生方に充分寸法を說明し、全生徒同その結果私は豫期

年五年とそのまゝであつた。卽ち二年生と三年生との間に、智能の飛躍的發達があると云ふ結果を得た。子供の身長と體重とに特に增加する時期のあることは、シュトラッツの研究によつて知られて居るが、精神方面にも亦斯樣な時期が存すると考へられる。經驗家に聽くと大體三年生の頃になると、生徒の成績が亂れるそうである。その現はれではないかと思ふ。扨て當面の問題にかへつて、環境を異にした、東京より刺戟の少い他の二校の場合は如何と云ふに。兩校共に左のやうであつた。

學年	一年	二年	三年	四年	五年
平均	8	8	8	9	9

備考　平均一點の異ひが大なる異ひであることは解いて見ると分る

上に現はれた飛躍的時期が、一年おくれて現はれて居るのである。斯樣な研究は不幸にして內外に見當らないので比較すべき資料を有しないのであるが、千五百名を資料としたものであるから少しとは言ひ難い。私は右の結果は、環境の相違に依て智能の發達に遲速ありと云ふことを暗示するものと考へる。

二、個人の場合

次は個人に於ける場合である。こゝに於て直ちに思ひ出す言葉は、大器晚成と云ふ愉快な言葉である。勿論早成の大器もあるであらう。併しそれが眞の大器として完成するには、必らず或る年月の人間修養が必要である。不世出の英雄、歷山大王と云へども未だ缺くる所があつた。今十年の壽命があつたならば、眞の大器となつたであらう。大石良雄如何に偉なりと云へども、十年後に生れて居つたならば、あの大事業を成し遂げ得たかは疑問である。

扨て今述べたのは、容易ならざる大器、眞の大器、偉人の素質を以て生れた上に、修養を積みに積んだ人に就てゞあつた。斯やうな偉人は常人の企て及ばざる所であるので、教育の參考となる資料としては、主として中器小器に就て考へるのが適當であらう。而して、その智能の發達如何と云ふことが、私の問題である。之に關して私は次のやうな一の結果を得て居るので識者の參考として提供する次第である。

東京女高師附屬高等女學校は一學年の定員百名であるが、入學の際その約半數は、附屬の小學校より無試驗にて上つて來ることになつて居る。而して殘りの半數は外から、卽ち入學試驗によつて採用するので、教育上比較研究するに興味ある團體である。先年私は附屬高女全員にメンタルテストをなし、是等兩團體に就き、比較考察したことがあるのでその一部をこゝに述べて見度いのである。先づその豫備知識として一言して置かなければならないことは、それ

等の生徒の附屬校園入學の際の事情である。

附屬高女に年々入學する約半數の附屬小學校出身者は、その附屬小學校入學の際には、その約半數は附屬幼稚園より矢張り無試驗にて上つて來るものであり、殘りの半數を外よりメンタルテストに依て採用するのである。その際多數の志願者の中から抽籤によつて先づ採用兒童數の約二倍を候補者とし、そのうちより半數を選むと云ふわけである。次に、他の半數卽ち附屬幼稚園出身者が、幼稚園に入學する際にも全く同樣の方法によるのである。(今日は幾分餘計に候補者を採つて居るやうであるが、本研究の當時は二倍を當籤として居つた)。それ故に附屬幼稚園及び附屬小學校入學者は、二倍の競爭者に勝つた子供等と云ふことが出來るわけである。是等の者が前記附屬高女生徒の半數であり、他の半數は年々十六七倍の競爭者に打勝て入學せる者である。而かもそれ等の志願者たるや、その殆ど大部分の者は、小學校に於ける優等生であるので、それ等の競爭者を凌いで入學せる是等半數の生徒等は眞に俊秀なる者と云つて宜しいわけである。

それ故に、數字だけで比較するならば、內から上つた者の僅かに三四名だけが、外から入つた者と太刀打が出來ると云ふことになる。果して左樣であるか。私は前記のメンタルテストの結果を整理して、兩團體の智能に興味ある現象を見たのである。今之を分り易くする爲に、各學年に於て、その半數の中に席次(メンタルテストの成績に上る)を占めた者のうちから、附屬小學校出身者數を調査した結果を表示すると、次のやうであつた。

學年	半數	附屬小學校出身者	割合
一	四八	一二	〇、二五
二	四八	二一	〇、四四
三	四九	二二	〇、四五
四	四二	一九	〇、四五
五	三八	一九	〇、五〇

卽ち、第一學年に於ては、附屬小學校出身者の僅かに二割五分だけが、半數である四十八番のうちに入つて居るだけであるが、第二學年になると四割四分に增加し、五學年になると五割卽ち、半數を占めて居るのである。之を見ると入學の初期卽ち尋常小學校卒業時代に於ては、十數倍に打勝つて入學した者の大多數は、確かに附屬小學校出來者より優れて居ることを示して居る。然るに第二學年以後になると兩者が次第に接近して來て居ることは、智能發達上の重大な問題が含まれて居ることを語ると思ふのである。

前述したやうに、若し人の智能の發達が、子供の時のまで同じ步調を以て進むものであるならば、右の第一學年が示して居るまゝを、他の學年も亦示して居なくてはなる

まい。然るに斯樣に興味ある結果を見せて居ることは、卽ち人の智能の發達には遲速があつて一樣に進むものではないと云ことゝ、從つてその最も速かつた者が斯樣な時期の入學試驗には惠まれたものであると云ふことゝ、を語るものと思ふ。斯樣な子供を私は智的早熟兒と言ひ度い。而してそれ等の中には勿論永久にその勢で進む者もあることは事實である。併し乍ら左樣な者許りでは無いことも亦同じく事實である。十で神童、十五で才子、二十過ぎれば唯の人。と云ふ世諺は、正にこの後者を云つたものであらう。上述した私の調査は約五百名を被驗者として得た結果であるので偶然であるとは思はない。偶然ならば他の學年にも亦、第一學年に類似せる結果が現はれなくてはなるまい。

それ故に、志願者の多い有名な學校に入學が出來なかつたからと云つて、我は、我が子は、我が弟妹は、何時までも入學した者より劣ると失望する必要はない。一年の後二年の後數年の後、更に數十年の後、彼等を凌ぐ者になれないと何人が云へやう。

私は本問題に就て一二の例を述べて筆を擱くことゝする。私の舊藩(肥前、大村藩)に松林飯山と云ふ有名な詩人があつた。德川の終り頃である。その詩才は天才的であつたと言はれた人であるが、後年學者がその詩について研究した結果は、十四五歲時代のものが最も卓れて居つたと云ふことである。あとは惰力で行つたものであらう。昨年我が艦隊の司令官として赫々たる武勳を立てられた鹽澤中將は、報知新聞に依れば、中學三年の時腸チフスにかゝり、それから頭が冴えて四年を出ると兵學校に首席で入學されたと云ふことである。若しこれが事實であるならば、原因はチブスに非ずして、智能發達の時期がこゝに來た爲であると見ることが出來る。更に私の熟知せる或る者は、中學時代までは確かに普通以下であつた。私はその者を時々敎へて見て、推理力にも記憶力にも何等見るべきものゝ無かつたことをこゝに斷言する。從つて成績も頗る思はしくなかつたのである。左樣なわけで卒業と同時には上級學校に入學が出來ず、三度目に或る直轄學校に入學が出來たのであつた。それからが奇蹟である。彼は第一學年の修了試驗に一躍首席になつた。之には彼自身驚いて居たのであつたが、之は偶然ではなくて、その後の三ヶ年の困難な課程を、そのまゝで通したのであつた。彼の學校時代を顧みると、小學校の成績は中位。中學の成績は下位、而して最後に於ては最優等者として學校から褒賞の時計を授與せられたのであつた。而して彼を競爭相手として大いに勉めた次席者は有名な中國の某縣立中學を首席で通したと云ふ秀才であつた。智能の發達に個人により遲速ありと見なければ、この謎は解けないであらう。私は實驗敎育學を研究する者

こして、世の父兄方に深くこの事實を玩味して貰ひ度いのである。徒らに出發の早きを爭つて、途中でつまづき倒れる者の如何に多いことであらう。

最後に一言加へ度いことがある。それは特に我が國の男子等が大いに好み而して求むるものに所謂「人物」なるものがある。この人物なるものは、恐らく或る物をもつて生れ、而して成る、ものであらうが、それ等人物の多くは決して世の所謂秀才とは思はれないことである。西郷南洲にメンタルテストを施したならI.Q.は一四〇などではなかつたであらう。之は知る由もないが、國家非常重大の今日海陸軍を背負ふ兩大臣は、新聞に依ると、兵學校や陸軍大學では、決して秀才とうたはれた人ではなかつたさうである。私には教育の最後の祕密がこゝに窺はれるやうに思はれてならない。(二月二十七日)

春らんまん

誰れの好意か、主事室の大きい花びんに、花が一ぱいに活けてある。

桃の花がある。菜の花がある。

雪柳の花がある。ちんちやうげの花がある。

のび〳〵とした枝に、紅、黄、白、綠の明るい色を織りまぜて、濶達な野をそのまゝの姿である。

何流といふか、春をかたつぱしから盛り上げて、春らんまん流ともいはふか。

やれ試驗、やれ入學と、氣づまりのことの多い三月の學校教師に、大きないきをさせて吳れる豪華な春である。

(S・K)